

## 競技委員長ルール講座

品位と格調あるプレーヤーを目指す、燦木会の皆さんはもとよりご承知でしょうが、改めてルールやマナーを再確認するのも良いことと思います。恒例、競技委員長のルール・マナー講座。

## 競技委員長より一言

燦木会幹事(競技委員長) 中川 彊

昨年、4年に一度のルール改正が行われましたが、今一度主な点を確認してみましょう。

## 「アドレスとは」

スタンスを取るとらないに拘わらずクラブを球の直前、直後の地表につけた時がアドレスとなります。従ってバンカー内ではアドレスしないでいきなり打つと云う解釈になりますね。アドレスなしの場合は構えてから球が動いてもノーペナで動いた所から打てばよい訳です。

## 「アドレス後に動いた球」

球が動いた原因が自分でなく他にある場合ノーペナです。

他とは、証言や周辺の物理的条件など証拠が必要で、例えば風とか動物とかです。勿論自分が原因の場合は1ペナで元の位置にリプレースです。

## 「スタート時刻に遅刻したとき」

スタート時刻に遅れても5分以内なら失格にならず、最初のホールに2ペナを付加。それ以上遅れたら失格です。公式競技でのルールですので、燦木会では、遅れの通知を受けたらその組を最後にしたりして失格にはしませんが…。

## 「バンカー内の砂の処置」

コース保護が目的なら、いつでも砂や土をならせることになりました。

例)バンカーから打ったらOB。打ち直しのボールをドロップする前に打った後をならしてもノーペナです。(ドロップするまでは、バンカー内のボールではないので)

以上が主な改正点です。

次に基本事項で、同伴競技者又はマーカーに告げなければならない場合と不必要な場合をまとめました。

## 「告げる必要のある処置」

- ・暫定球をプレー(R27-2)
- ・自分の球かどうかを確認するための拾い上げ(R12-2)
- ・プレーに適さない球かどうかを確認するための拾い上げ(R5-3)
- ・判断出来ない場合に2つの球をプレーする場合。(R3-3)

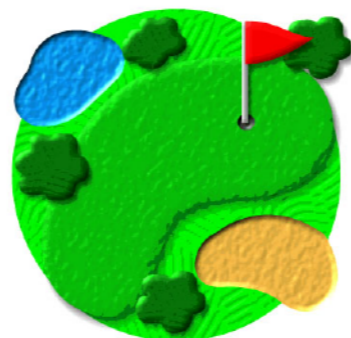
## 「告げる必要のない処置」

- ・動かさない障害物からの救済
- ・異常なグラウンド状態からの救済
- ・ウォーターハザードの救済
- ・アンプレヤブルの処置

この必要のない事項は意外ではありませんか?

黙々と勝手に自分で判断して、カート道路からのドロップや、修理地とか、ウォーターハザードからドロップしてプレイすればいい訳ですね。

ではありますが、告げなくても規則違反とはならないと云うことで、競技者どうしが習慣的に確認しあっていることを否定するものではないそうです。



## 新ペリアについて

燦木会は当初より「新ペリア」ハンディキャップにより競技を行っています。新ペリアに関しては詳しい方も多いかと思いますが、おさらいをかねて若干考察してみようかと思ひます。

現在ゴルフコンペに於いて用いられるハンデ方式は主に4つあるようです。

- ①ペリア方式/隠し6ホールのスコアを3倍しコースのパー数(72)を引いた数を換算してハンデとして加算
- ②新ペリア方式/隠し12ホールのオーバーパー分に1.2を掛けハンデとして加算
- ③新新ペリア方式/隠し9ホールのスコア合計を2倍しコースのパー数を引いた数の80%をハンデとして加算
- ④キャロウェイ方式/18ホール中最悪スコアをグロスに応じて0から6の範囲で足してハンデとして加算

現在世界的にはキャロウェイ方式が多く採用されているようですが、我が国では圧倒的に新ペリアが採用されているようです。ペリア方式はギャンブル性が強すぎ衰退の一途。新新ペリアは新ペリアよりは意外性がありそうで、徐々に採用されているという話を聞きますが、計算ソフトがコースに導入されている例が少なく、自分たちで計算する必要がありそうです。

ご承知のように「新ペリア」は、12の隠しホールでダブルパーまでをハンデ基礎数とし、最終的にハンデの合計に1.2をかけた数をハンデとしてグロスにプラスします。バーディ以上はパーとして計算します。

この方式では、同じグロスでもパーやボギーが続くより、ダボやトリプルを挟んでパー・バーディの数が多い方が有利になります。

ホール(パー)	1-4	2-3	3-4	4-4	5-4	6-3	7-5	8-4	9-5	10-4	11-4	12-4	13-5	14-3	15-4	16-3	17-4	18-5	合計
グロススコア	5	4	5	5	5	4	6	5	6	5	5	5	6	4	5	4	5	6	90
ハンディキャップ	1		1	1		1		1	1	1	1			1	1		1	1	12×1.2=14.4

ホール(パー)	1-4	2-3	3-4	4-4	5-4	6-3	7-5	8-4	9-5	10-4	11-4	12-4	13-5	14-3	15-4	16-3	17-4	18-5	合計
グロススコア	6	3	6	5	4	4	4	7	6	5	6	4	5	4	5	3	7	6	90
ハンディキャップ	2		2	1		1		3	1	1	2			1	1		3	1	18×1.2=21.6

上の例は清川におけるありそうなスコア2例。ハンデホールは1012年12月燦木会のものです。

同じグロス90でも全部ボギー(私実際に何度かこのスコアで廻ったことがあります)の場合は、ネット75.6。下のホールbyホールなら68.4。片や10位前後、片や優勝と、その差は歴然たるものがあります。

新ペリアで有利なのは、適当に荒れた80~90位のグロスと言われていますが、燦木会では99のグロスでの優勝が2回、一方グロス79で最下位という例もありました。

この時は、優勝者もグロス79、優勝と最下位のグロスが同じという現象も、新ペリアなればこそでしょう。

間もなく7周年を迎える燦木会のハンデ方式変更も考えないでもありませんが、新々ペリアやキャロウェイ方式は倶楽部で計算が出来ませんので、実行不可能。当分、やりなれた(忌まわしい!?)新ペリアとお付き合いをお願いいたします。

燦木会幹事(事務局長) 齋藤 哲雄